

東京都教育委員会教科担任制等推進校 教科担任制実践報告会



- 1 東京都小学校教科担任制等推進校の概要
- 2 幡代小学校での実施形態
- 3 マネジメント上の工夫
- 4 成果と今後の課題
- 5 時間割作成の工夫



令和6年2月28日(水)
渋谷区立幡代小学校

1 東京都小学校教科担任制等推進校の概要



(「東京都小学校教科担任制等推進校事業 実施要項」から)

小学校教科担任制の趣旨

小学校の「学び方」「教え方」を改革するため、加配された教員等を活用しながら、小学校高学年における専門性の高い教科指導を実現し、中学校教育への円滑な接続を図るとともに、発達段階に応じた指導体制を構築し、学年・専科のまとまりで多面的・多角的な児童理解の促進を図るなど、学校全体の指導体制の転換を図る。

小学校教科担任制等推進校の設置

小学校教科担任制に関する研究・開発及び実践・検証を行うことを目的に、都内公立小学校を、小学校教科担任制等推進校（以下、「推進校」という。）として設置する。学校数については、令和3年度を始期とする推進校を10校、令和5年度を始期とする推進校を10校とする。

推進校の役割

- ① 専門性の高い教科指導を実現し、中学校教育への円滑な接続を図る。
- ② 複数の教員による多面的・多角的な児童理解を促進し、学年・専科のまとまりによる組織的な生活指導を実践する。
- ③ 個別最適化された学びの実現に向けた、ICTを活用した指導の在り方を開発する。
- ④ 積極的に地域や関係諸機関等との連携を図り、地域人材を活用した指導の在り方を開発する。
- ⑤ 児童・教員・校長へのアンケート調査等により成果検証、研究成果の全都的な発信及び普及を図る。

対象学年、実施期間、推進校への中学校教員の配置

対象学年は、原則として小学校高学年（第5・6学年）とする。
実施期間は、令和3年度を始期とする推進校については令和3年度から令和5年度までの3年間、令和5年度を始期とする推進校については令和5年度から令和7年度までの3年間とする。
推進校には、理科又は保健体育の中学校教員を1名配置する。

東京都教育委員会による支援

- ・ 小学校教科担任制のシステム構築のために、推進校へ委託金を支出している。
- ・ 推進校が一堂に会した研究・推進委員会を年3回開催し、情報共有の機会を設定している。
- ・ 加配教員が一堂に会した連絡会を年3回開催し、加配教員の情報共有の機会を設定している。
- ・ 推進校への訪問を年3回実施し、指導・助言を行っている。
- ・ 推進校への学識経験者による訪問を実施し、指導・助言をいただく機会を設定している。

教科担任制で期待される効果

- 教師側：
- ・ 教材研究の深化や授業準備の効率化
 - ・ 教科指導の専門性や授業力の向上
 - ・ チーム意識の高まり・学年経営の強化
- 児童側：
- ・ 質の高い授業の実現による児童の学力向上
 - ・ 複数教員による多面的な児童理解による児童の心の安定
 - ・ 小学校から中学校への円滑な接続



2 幡代小学校での実施形態

児童数・学級数・教職員数

令和5年4月1日現在

学年	1	2	3	4	5	6	特支	計
児童数	127	125	121	120	118	115	15	741
学級数	4	4	4	4	3	3	2	24

教職員数42名（校長1、副校長1、主幹教諭2、主任教諭13、教諭25）

対象学年・対象教科・実施形態

- ・ 第5学年・第6学年
- ・ 対象教科実施形態

	○学級担任による授業 下記担当教科	○専科教員による授業	○中学校加配教員による授業
第5学年	国語、理科	図工、音楽、英語	体育
第6学年	社会、算数	算数、家庭科	
	+ 道徳、総合、特活	+ 副担任業務	+ 副担任業務

の中で習熟度別を行っている算数以外は、一度の授業準備で3学級分実施できる。

教員のもち時数

学年	5年			6年		
	5-1	5-2	5-1	6-1	6-2	6-3
学級担任 (持ち授業数)	5年社会 (16.5)	5年国語 (16.5)	5年理科 (16.5)	6年国語 (16.5)	6年理科 (16.5)	6年社会 (16.5)
国語	5年国語			6年国語		
社会	5年社会			6年社会		
理科	5年理科			6年理科		
特活	5年社会	5年国語	5年理科	6年国語	6年理科	6年社会
総合的な学習の時間	5年社会	5年国語	5年理科	6年国語	6年理科	6年社会
道徳	5年社会	5年国語	5年理科	6年国語	6年理科	6年社会
算数少人数 (19)	算数少人数、5年社会、5年理科、算数時間講師 3学級4展開の習熟度別 (3・4年生の算数も担当)			算数少人数、6年社会、6年理科、算数時間講師 3学級4展開の習熟度別 (3・4年生の算数も担当)		
音楽 (17)	音楽専科 (4年生の音楽も担当)					
図工 (17)	図工専科 (4年生の図工も担当)					
家庭科 (19)	家庭科専科 (2年生・特別支援学級の音楽も担当)					
体育 (15)	体育専科					
英語 (21)	英語専科 (3・4年生・幡代学級の英語も担当)					

学級担任のもち時数が大幅に減少し、負担軽減になっている。

専科教員も分掌等の軽重に合わせて、バランスよく時数が調整されている。

3 マネジメント上の工夫

教科担任制の実施にあたり、本校第5・6学年における6学級の実態にあった、最適な教科担任制をつくるため、以下の3つの視点とその年度の重点目標を設定した。

3つの視点の設定

視点1 「教科担任制のよりよい運用」に向けての取組

視点2 「多面的な児童理解」に向けての取組

視点3 「教員の指導力向上・児童の学力向上」に向けての取組

年度の重点目標の設定

令和3年度 「本校の実態に合った教科担任制のよりよい運用に向けての基盤づくり」

令和4年度 「学年経営を強化し、チーム意識を醸成し、複数の教員での『児童理解』の推進～学年・専科（学年団として）のまとまりによる組織的な生活指導の実践～」

令和5年度 「教科の系統性を意識した授業を展開することにより、『教員の指導力向上・児童の学力向上』を図る。」

視点1 「教科担任制のよりよい運用」に向けての手立て



- ・ **地域人材や関係諸機関等との連携**
年に数回地域人材や教科担任制にかかわる有識者にご講演いただき、本校に合った最適な教科担任制を模索する。
- ・ **指導教科決定の工夫**
教科の希望を確認し、管理職が「校務分掌の軽重」、「教員の経験」を考慮し、決定する。
- ・ **時間割作成の工夫**
児童の状況把握のために月曜日1校時と金曜日6校時は学級担任の授業とする。
同日の同時刻に道徳、総合的な学習の時間、学級活動を位置付け、学年全体で取り組む学習や学年指導の時間を確保する。また、授業時間内に学年会を設定した。
- ・ **保護者や地域への情報発信の工夫**
情報発信ツール（Home & School）で保護者に情報発信を行う。また、保護者会や学校運営協議会において、小学校高学年教科担任制の進捗状況、成果と課題を周知する。
- ・ **週ごとの計画作成の工夫**
学級担任の週ごとの計画は、自分の担当教科と担任学級の授業が分かるように作成する。
- ・ **年間2回のアンケート調査の工夫**
児童・教員・校長へのアンケート調査（年2回）により成果検証を行う。
- ・ **学級担任から学年担任への転換の工夫**
専科教員を副担任として第5・6学年に2名ずつ配置する。教員の男女比を考慮して配置することにより、学年担任としての指導体制の充実を図る。
- ・ **副担任の仕事の明確化**
①学年会に参加する。②学年に補教が必要になった場合は、優先的に補教を行う。
③学年だよりの作成輪番に入る。④学年の宿泊や校外学習の引率に加わる。
⑤学年の宿泊や校外学習などの行事担当になる。⑥個人面談に必要なに応じて同席する。
⑦午前8時30分に連絡なく登校していない児童への家庭連絡を行う。
⑧中休み・昼休み、学年の体育館遊び時の指導の輪番に入る。
- ・ **特別時間割の工夫**
年度始め数日間（学級開き等）、年度終わり約3週間（卒業式練習、時数の調整等）、行事先は学年時間割にする。
- ・ **教室の環境面の共通理解**
教室の教師机は綺麗にしておく。チョーク箱を持ち、チョークは自分で用意する。また、児童机や電子黒板のコンセント等原状復帰をしっかりと行い教室を出る。
- ・ **時数管理について**
先を見越して自分で時数の調整をする。各教科の時数管理責任は教科担当者にある。また、特別行事で特別時間割を組む場合は、教科担任制担当者を含めて考える。
- ・ **段階的な教科担任制の工夫**
第4学年は1月より授業交換で教科担任制を実施することにより、第5学年から始まる本格的な教科担任制のシステムに慣れるようにする。（R5：体育、理科、社会で実施）

視点2 「多面的な児童理解」に向けての手立て

- ・ 児童の情報共有の工夫（学習面・生活面）
学年会（学年内での共有）及び専科会（第5・6学年の授業に関わる専科での共有）をそれぞれ週1回設定するとともに、月1回の教科担任会で、第5・6学年の児童情報を共有する。その結果担任が気付かない児童の姿を共有することができ、児童理解の質の向上が期待できる。
- ・ チャットツール「Teams」を活用した情報共有の工夫
チームを作成し、突発的な生活指導や児童情報を共有し、即時対応につなげる。また、児童の成長につながる情報を共有する。
- ・ 生活指導での工夫
生活指導上のトラブルが起きた場合は、学年の教員が同席して複数で対応する。（学級差がなくなる）
- ・ 通知表の所見作成の工夫
学級担任が「生活面」、「教科面」の様子を中心に書く。ただし、学級担任は、担当していない教科もあるため、教科担当教員は、児童の各教科の様子を共通のフォーマットに記録し、学級担任に提出する。その情報を個人面談や所見の参考にする。

視点3 「教員の指導力向上・児童の学力向上」に向けての手立て

- ・ ICTの積極的な活用
タブレット端末の有効な活用方法を見出し、児童が文房具のように使用することを通して、学力の向上につなげる。有効な活用方法は、Teamsで共有する。
- ・ 単元指導計画案の作成と蓄積
各教科単元指導計画案を作成し、蓄積していくことにより、次年度の担当者にスムーズに引き継ぐ。
- ・ 授業公開への工夫
同じ教科や担当学級の授業をいつでも参観し合えるようにすることで授業改善につなげる。
- ・ 校内研究との連携
校内研究では、各教科系統性を意識した研究を行うことで学年のつながりを意識した授業改善につなげる。

共通理解項目の設置

- ・ 授業中のトラブルは、担当教科の教員が中心に複数で対応する。
- ・ 時数は、担任と担当教科の教員がダブルチェックし管理していく。
- ・ 授業ができなくなった場合は、補教なら教材を用意する。また、授業交換なら個人交渉で授業を交換してもらう。
- ・ 行事については、学年で担当を決めて練習する。（学年の意向を優先）
- ・ 教室移動の仕方や授業のルール設定等は、担当教科の教員が責任をもって行う。
- ・ 検診や避難訓練の際は、その時間の担当教科の教員が引率する。授業時間をまたぐ場合は休み時間に必ず引き継ぐ。
- ・ 一人一人の教員が授業時間を必ず守る意識をもち、授業時間を確保する。
- ・ 学級への連絡は「Teams」で一元化する。朝の会で「Teamsチェックタイム」を設け確認する。

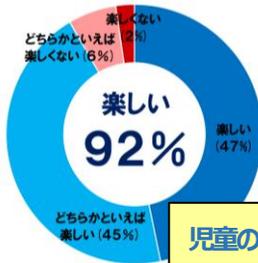
4 成果と今後の課題



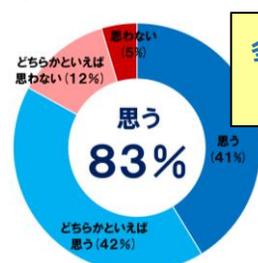
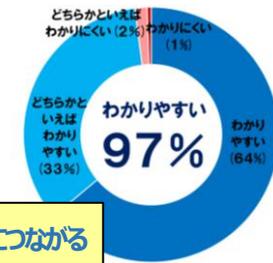
令和5年3月に卒業した区立中学校進学者へのインタビューも実施！
すべての卒業生が小学校での経験が生かされていると話していた！

成果 12月に第5・6学年の児童、教員を対象に4件法のアンケートと自由記述による実態調査を行った。

問1 学年や専科のいろいろな先生の授業は楽しかったですか。 問2 学年や専科のいろいろな先生の授業は、わかりやすかったですか。 問3 学年や専科のいろいろな先生と関わることで、自分のことをよわかってくれている、よくみてくれていると思いますか。



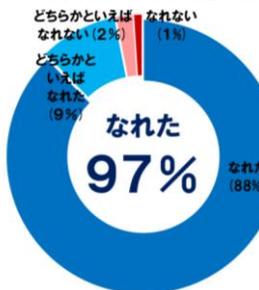
児童の学力向上につながる



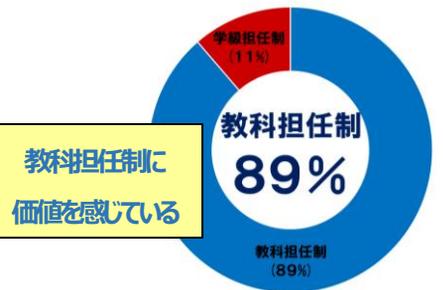
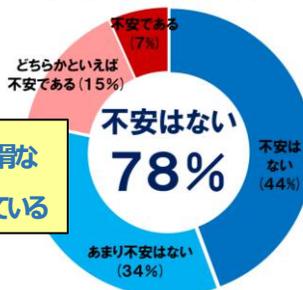
多面的な児童理解
につながっている

問1の自由記述では、「先生によって授業のやり方が違って楽しい」という意見が多かった。問2の自由記述では、「教科の専門の先生が教えてくれるから分かりやすい」という意見が多かった。問3の自由記述では、「たくさんの先生と授業で関わることで、委員会やクラブ、廊下で会った時なども話しやすくなった」という意見が多かった。一方で、「担任の先生が授業でしか見てくれないので少し寂しい」という意見もあった。

問4 学年や専科のいろいろな先生がクラスに来て授業をするのには、もうなれましたか。 問5 教科担任制2年試行中、学校進学への不安はありますか。 問6 小学校第5・6学年では、学級担任制と教科担任制どちらがふさわしいと思いますか。



中学校への円滑な
接続につながっている



教科担任制に
価値を感じている

問4・5の自由記述では、「もう慣れたので中学校への進学への不安はない」という意見が多かった。一方で、不安であると答えのほとんどが、「中学校の先生や友達との人間関係」、「学習進度の速さ」についての内容だった。問6の自由記述では、「授業がわかりやすい」、「先に経験することで中学校への不安がなくなる」という意見が多く、教科担任制のシステムに価値を感じている児童が多かった。一方で、人と交流するのが苦手な児童や学習が苦手な児童、不登校傾向にある児童に関しては、「学級担任制で安心できる担任の先生と過ごす方がよい」という意見もあった。

〈「教科担任制」教員アンケートより〉

- ①質の高い授業の実現による学力向上が図られていると思いますか。
- ②複数の教師による多面的な児童理解による心の安定が図られていると思いますか。
- ③小学校から中学校への円滑な接続ができると思いますか。
- ④教材研究の深化や授業準備の効率化が図られていると思いますか。
- ⑤教科指導の専門性や授業力の向上が図られていると思いますか。
- ⑥チーム意識の高まり・学年経営の強化が図られていると思いますか。

一方で、学級担任からは、学年の児童を学年の教員で見えていくので「困りごと」を共有しやすくなったことは、よいが、自分の学級児童との人間関係づくりが難しくなった、という意見も出された。

すべての項目で **95%**以上の肯定的な意見だった。特にもち時数の削減や授業準備の効率化による働き方改革と組織的な生活指導によるチーム意識の高まりは、満票だった。

今後の課題

- ・ 教員や児童が学級への所属感や一体感を高める手立てを講じること。（学級目標の達成、行事ごとの学級写真の掲示、学年のもち上がり制度の推奨等）
- ・ 学級増による担当教科や時間割作成の複雑さを解消すること。（来年度：国語①、国語②、体育、社会を予定）
- ・ 経験の浅い教員へのフォローアップを行うこと。（OJTの充実、最低3年に一度は学級担任制を経験させる等）

